

ΕΠΙΦΑΝΕΙΑ

エピファネイア

知っておきたいキリスト教のことば (9)

アドヴェント あどべんと

このアドヴェントという言葉はラテン語の Adventus(到来)という語から来たもので、ギリシア語のエピファネイアと同義です。エピファネイアという語はキリスト教においては、人間世界へのキリストの到来や再臨をあらわします。

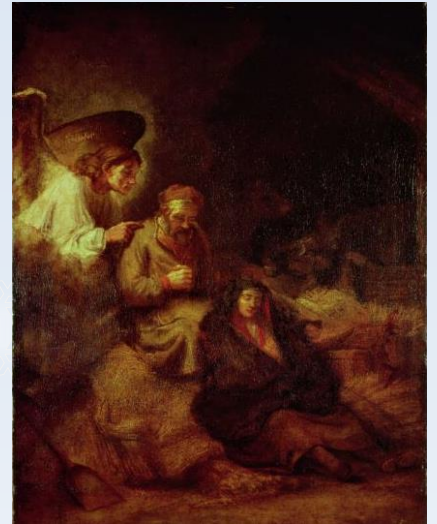
またアドヴェントという言葉自体は、西方教会ではクリスマス前の一定期間を意味します。聖公会では降臨節、カトリックやルーテル教会では待降節と呼びますが、キリストの降誕を迎える準備をする期間として大切にしています。

アドヴェントの開始日は年によって違います。11月30日を「アンデレの日」として記念している教派もありますが、アドヴェントはその11月30日に最も近い日曜日から始まります。したがって、一番早く始まる年は11月27日から、遅い時には12月3日からとなります。アドヴェントカレンダーは1から始まりますので、年によっては4日間お預けを食ったり、最初の日には3箇所めくらないといけなかったりもします。

そしてアドヴェントの終わりはクリスマスイブです。このアドヴェントの期間には、断食や禁酒をしたり、結婚を禁止したりしてきました。今でも伝統的な教会では、この期間、結婚式はおこなわれません。これらの習慣は、東方教会では1月6日に洗礼式がおこなわれたために、その前に断食をしたことにもよりますし、イエス様をお迎えする前に悔い改めるという意味もありました。

わたしたちはアドヴェントの期間、イエス様のご降誕を待ち望みます。そして、将来のこととして起こるイエス様の再臨を待ち望むのです。その二つの意味において、わたしたちは心を整え、待ちわびる。それが「アドヴェント」なのです。

今回は「憐み」です。お楽しみに。



「ヨセフの夢」

レンブラント・ファン・レイン (1606-1669)

また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。

(テトスへの手紙 2章 13節)

